

# 今後の主要施策

---

## 観光庁

○ 最先端技術を活用して、入国審査待ち時間20分以内の目標を実現するなど、ストレスフリーで快適な旅行環境を実現する。

出入国関連機器等	導入効果	2019年3月末時点	設置予定 (2020年3月末時点)
顔認証ゲート	・パスポートと顔情報を照合することで、 <b>対面による本人確認が不要</b> となる。	5空港 【成田,羽田,関西,中部,福岡】	6空港 【+新千歳】
税関検査場電子申告ゲート	・機内で電子申告を行うことで、 <b>対面による本人確認が不要</b> となる。	1空港【成田】	6空港 【+羽田,関西,中部,福岡,新千歳】
One IDシステム	・チェックイン時に顔情報を登録することで、手荷物預け時や搭乗時の <b>航空券・パスポート提示が不要</b> となる。		2空港 【成田,羽田】



【顔認証ゲート】



【税関検査場電子申告ゲート】



【自動搭乗ゲート】

# 当たり前前の受入環境整備～②中国語を含めた多言語対応

- これまで14の主要観光地、約100箇所において、地方自治体等を支援して観光案内所やまちなかの看板等の設置を進めてきたが、中国語表記も進めるべく働きかけを強化。最終的に少なくとも100の主要観光地、約700箇所において整備を行う。
- 国立公園、文化財を含む42地域において、約1500箇所の英語解説文を作成し、環境省、文化庁と連携して看板等の整備を進めており、英語解説文を元に中国語解説文を作成中。最終的に約150地域、約8000箇所です英語・中国語解説文を含む看板等を整備する。

2018年度	2019年度		2020年度	2021年度以降
観光地	少なくとも50程度の主要観光地の整備		2021年までに100の主要観光地を抜本的に改善	
文化財・国立公園	世界文化遺産19地域、国立公園34公園を含む106地域の英語解説文を作成した上で、翌年度までに看板等を整備		世界文化遺産19地域、国立公園34公園を中心に最終的に約150地域で多言語解説を抜本的に改善	

## 観光地



## 文化財



**Objects Symbolic of Ancient Japan: Their Forms and Functions**

These objects represent three successive periods in ancient Japan. On the right is a pottery vessel from the Jomon period (ca. 11,000 BC - ca. 25th century BC). Pottery was invented in this period and used mainly for cooking, though some pottery vessels were made for burying the dead. Jomon pottery often features symmetric forms.

On the left is a bell-shaped bronze mirror from the Yayoi period (ca. 5th century BC - ca. 3rd century AD). Mirrors like this one were covered with technology introduced from China and Korea, and may have been used in rituals of prayer for bountiful harvest. Many objects from this period, including bronze, feature more refined forms.

In the center stands a terracotta figurine from the Kofun period (ca. 3rd century - ca. 7th century). Sculptures were arranged atop the tomb mounds of powerful rulers during this period. These arrangements seem to recreate different scenes related to the burial ritual, such as the funeral and religious rituals they participated in. These sculptures and other objects from the Kofun have a variety of forms, but they all express the nobility of these rulers.

---

**縄文、弥生、古坟時代の代表造型及其作用**

此部分介绍了各个时代的代表性造型，包括绳文时代（公元前10000年—前2500年）的土器、弥生时代（公元前3世纪—初世纪）的铜镜，以及古坟时代（公元3—7世纪）的铜镜。绳文时代的造型多为对称形式，主要用于烹饪。弥生时代的造型更为精致，主要用于祭祀。古坟时代的造型则更为多样化，主要用于陪葬。这些造型不仅反映了当时的技术水平，也体现了当时的社会结构和宗教信仰。

- 新幹線はインターネットによる検索・予約・決済が進んでいるが、地方鉄道、バス、レンタカーはまだ不十分。また、これらの利用には、それぞれの手続きが必要。
- 地方交通だけでは辿り着けない観光地へのラスト1マイルをつなぐ新たな交通手段を含めて一括案内を行い、予約・決済もできるシステムを構築するのが「MaaS」(マース)。既に今年度19か所で実証実験を実施しており、来年度はこれらの本格運用を目指す。

Mobility as a Service(MaaS)



地域鉄道



路線バス



タクシー



ラスト1マイルをつなぐ新たな交通手段

超小型モビリティ



オンデマンド型交通



旅客船

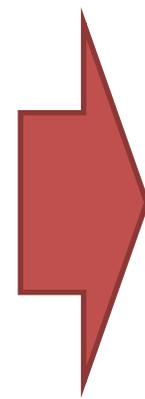


レンタカー・カーシェア



シェアサイクル等

一括で検索・予約・決済が可能



# 当たり前の受入環境整備～④「道の駅」インバウンド対応拠点化

- 全国1160箇所にある「道の駅」は、現在主に、トイレ休憩、飲食、日本人向けの道路・観光情報の収集のために利用されているところ。
- 訪日外国人旅行者のレンタカー利用が140万人となる中、2025年までに全国の「道の駅」約1000箇所でもキャッシュレス環境※を実現するなど、インバウンド対応を進めることにより、地域の観光拠点機能の充実と消費拡大を図る。

※道路局や全国道の駅連絡会等と連携

## 「道の駅」における受入環境整備

- 2025年までに、
- キャッシュレス対応 全国の道の駅1,160駅の**80%以上**で整備
  - 多言語対応 観光案内所のある道の駅約850駅の**50%以上**で整備

## インバウンド対応の事例

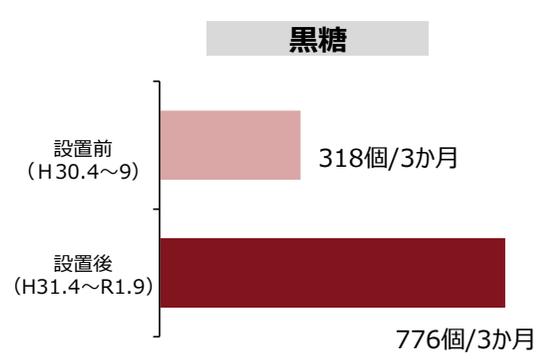
- 「道の駅」に隣接した宿泊特化型のホテルを運営
- 多言語での商品紹介可能なタブレット端末を導入



2020年秋以降に、6府県15箇所、**約1,000室の規模でオープン予定**



道の駅いとまん（沖縄）の売場



**売上比 244%**

# 外国人が楽しめる滞在型コンテンツ～①スノーリゾート

- 世界のスキー人口1.3億人のうち欧米が7割以上、中国が1割程度。日本のパウダースノーは外国人から高い評価を得ているが、多言語対応の遅れ、リフト・ゴンドラ等施設の老朽化、ナイトライフがない等スノーリゾートとしては課題が山積。
- まずは、全国の10～15箇所でスノーリゾートを形成するため、上質なスキー場の整備、多言語対応、長期滞在できる街中の環境整備を一体的に推進。

## 国際競争力の高いスノーリゾートの条件



リフト・ゴンドラの再編

多言語での案内看板

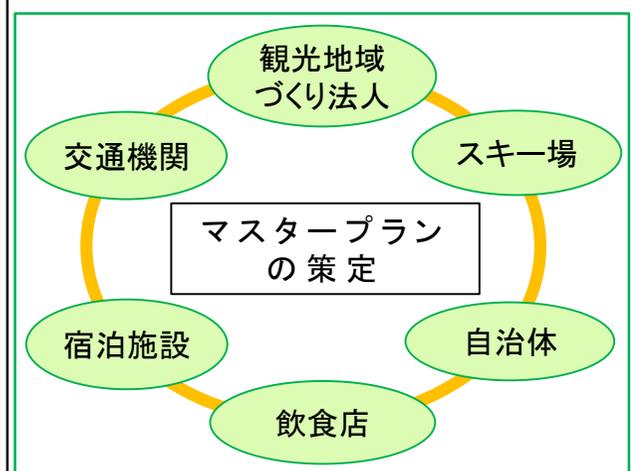
ラグジュアリーな観光拠点施設

ゴンドラサウナやプールのある山上テラス

無料Wi-Fiの整備

地元の「食」を味わう「かまくらレストラン」

## 取組の方向性



- 〔取組例〕
- リフト・ゴンドラの再編、多言語化をはじめとしたゲレンデや街中の整備
  - 地域内外の投資を呼び込む環境づくり

国の支援や投融資

○ 日本での訪日外国人旅行者の平均滞在日数は、欧米が14.0日、中国が9.7日。人数だけでなく、消費額を伸ばすには、長期滞在できるコンテンツづくりが必要。

夜間・早朝も楽しめる環境整備

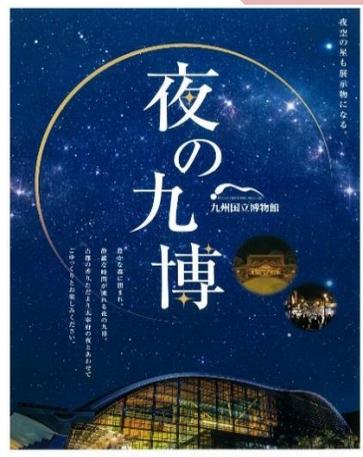


例) 石見神楽  
夜神楽公演



例) 別府地獄めぐり  
湯気へのプロジェクションマッピング

**地域の眠れる観光資源を  
夜間・早朝も活用**



例) 九州国立博物館  
「夜の九博」



例) 新宿御苑  
早朝開園の試行的実施(朝7:00～)

城泊・寺泊による歴史的資源の活用



大洲城(愛媛県大洲市)  
1泊1組100万円予定  
(2020年春開業予定)



三井寺(滋賀県大津市)  
1泊1組30万円～  
(2018年開業)

地域の医療・観光資源の活用



医療資源と観光資源との組合せ  
※令和元年度は国内5地域において実施中 **6**

- 海外の先進的な観光地では「DMO」と呼ばれる民間ベースの事業者があり、「DMO」が地域のホテル等から独自の財源を調達して、観光客の受入環境整備等を行っている。
- これにならい、我が国でも地域の観光地づくりを担う新たな主体として、平成27年度から「観光地域づくり法人(DMO)」を各地で自主的に設立し、観光庁に登録できる制度をスタート。
- 各地のモデルとなりうる意欲の高い法人については、国による専門人材の登用支援、職員の現地派遣、ベンチャーとのマッチング等により、着地整備の取組を強力にサポート。

優良事例① (一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー



荷物配送

ガイド

交通

お弁当

宿

これらを  
一括手配

外国人旅行者が6年間で**13倍**

優良事例② (一社)豊岡観光イノベーション



・まちなかの受入環境整備

・海外向け予約サイトの運営

・ウィンターコンテンツの開発

外国人旅行者が7年間で**50倍**

# 観光庁と各省が連携する仕組み

- インバウンドに関連する地域指定を各省が行う場合、観光庁に事前に情報を共有し、相談する体制を今秋から構築。
- 各地域の着地整備の状況、地域の関係者の連携状況を踏まえて、各省が行う地域指定を観光庁がコーディネート。

## 国立公園満喫プロジェクト（環境省）



## 重要伝統的建造物群保存地区（文化庁）



## 農泊（農林水産省）



...

等17項目

## 全国市区町村別 観光関係施策リスト ※抜粋

都道府県名	市区町村名	市区町村名	①旅行環境まるごと整備計画認定地域(R1)	②多言語解説整備支援事業対象地域(H30~R1)	③城泊(地方創生推進交付金)(R1~)	④DMO登録地域(地域連携DMO、地域DMO)	⑤国立公園関係地域(陸域のみ)	⑥国立公園満喫プロジェクト選定8公園関係地域	⑦SAVOR JAPAN認定地域(H28~H30)	⑧農山漁村振興交付金支援地域(農泊推進対策)(H29~R1)	⑨国立博物館・美術館	⑩日本博採択関係地域(※市町村が判別できるもののみ)	⑪Living history促進事業採択地域(※市町村が判別できるもののみ)	⑫世界遺産関係地域	⑬日本遺産認定地域(H27~R1)	⑭重要伝統的建造物群保存地区	⑮古民家200地域	⑯食かけプロジェクト	⑰博物館を核とした文化クラスター	合計	
北海道																					
北海道	札幌市	サッポロ					○					○									2
北海道	函館市	ハコダテ		○						○					○	○					4
北海道	小樽市	オホ樽シ													○						1
北海道	旭川市	アサヒカワシ				○				○					○						3
北海道	室蘭市	ムロランシ													○						1